

動労千葉と全支援勢力への「処分・弾圧要請」を行なう「本部」スト破り集団



81.3.25
No. 698

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）四三三（七）二〇七



われわれは本紙六九三号において、動労「本部」反動分子が三月ジェット決戦ストライキに対して公然と権力・国鉄当局のスト破りの尖兵になり下った。理論と実践をあまねく暴露した。このわれわれのストライキ貫徹をもつてする「本部」スト破り集団への正鵠を得た糾弾は、かの革マル反動分子をして彼ら特有のベテンの言いがれを一切許さず、日々追い詰めてくる。

今日「本部」反動分子はスト破り集団の正体を赤裸々に暴露され追い詰められたがゆえに、「動労千葉の首をドンドン切れ」と当局に泣訴し、ストライキに対して権力に「もつと弾圧しろ」と要請するにまでいたっている。これほどまでに露骨に、組織と職場・生活をかけて正義の大ストライキをたたかう労働組合に対して、権力・国鉄当局に「処分しろ」「弾圧しろ」と要請した「労働組合」が日本労働運動史上かつてあったであろうか。われわれは怒りをたぎらせてデッチ上げ「千葉地本情報」No.19・20・21号を紹介しながら、かれらの反動的正体をあきらかにしよう。



反対同盟・青行・支援共闘を弾圧せよと権力に要請する「本部」スト破り集団

【「疑惑を深める警察権力の警備」その1・その2・その3】の見出しを憶面もなく、もつぱらわが動労千葉のストライキに支援行動を組んだ反対同盟、青年行動隊、支援共闘の部隊への権力の弾圧を要請してストライキを破壊せんとしたかれらのおどろくべき反動的正体である。

【その第一は、いわく「……威力業務妨害罪や建造物侵入罪などを適用し、県警はそれなりの対処をしなければならぬ……」「警備体制の不備等々の疑惑」「……メサンを、警備体制」（「情報」No.19）なる内容が随所に出ているのである。

つまり彼らが当局のスト庄殺攻撃の尖兵になってスト破りをしたにもかかわらず、それを敢然として粉砕し、ストライキを貫徹されたがゆえに、次は権力に弾圧を要請しストライキを破壊せんと策動したのである。この警察・「本部」スト破り集団の連合ぶりを見よ。これが彼らの正体なのだ。

【第二は、ジェット延長攻撃にたいする一カケラの怒りもないことに明らかのように権力・当局との全く同じ立場にたっている「本部」スト破り集団の正体である。

この「情報」を読んであきれかえることは、政府・当局の理不尽なジェット延長攻撃への怒りの一言すらないことだ。ただあるのは弾圧要請である。「本部」スト破り集団・土屋粹一派よ、もしあるとすれば答えて見よ。

日共以上の挑発・ヤラセ論

【第三に「県警のヤラセ」論（No.21）の超反動性

である。「県警が『支援共闘』などの各セクト集団を利用して、ジェット燃料列車の運行を妨害させている」（No.21）これは「弾圧がなまぬるい。もつと弾圧しろ」という別の表現である。

全支援勢力は連日不眠・不休で県警の不法・不当な弾圧と闘いぬいて支援行動を貫徹したので。三月四日の成田駅ホーム上での59名に及ぶデッチ上げ逮捕の事実がそれを証明している。「情報」ではこの不当逮捕について抗議するどころか一言もふれていないのである。

支援の部隊は一人ひとり切符をかって入場し、集会やシュプレヒコールさえ行わず、平穩に構内にとどまっていたにもかかわらず、退去通告が出された後すぐに退去の行動にうつり改札口にむかって階段を上がり出ようとしたところ突然「不退出罪」で全員逮捕という、類例をみないメサンかつ悪らつな大弾圧である。この事実が県警のすさまじい弾圧攻撃を明らかにしている。

【第四に、ジェット延長に対する「本部」スト破り集団の全面協力である。いわく「本来ジェット燃料の安全輸送のために警備すべき警察」（No.21）が警備をおこなっている」とワメキ散らし、今日に至っては、「ジェット列車に緩急車を一両余分につけて機動隊を十名警乗させる」とまで要求している。

かくして、わが動労千葉の三月ジェット決戦ストは、「本部」スト破り集団の反動的正体を全面的にあばき出した。

動労「本部」反動分子弾劾一掃・動労大改革へ前進しよう。